

ママが笑っていると子どももうれしい！  
 パパ元気！元気な家族がふえる

—もつと元気なまちにしたい「キラキラ輝くTodaママフェスタ」

埼玉県戸田市 エンジェルすまいる

戸田って都民？県民？

埼玉県戸田市は荒川をはさんで東京都と隣接しており、約60%の通勤通学者が東京に流出していることから「埼玉都民」という言葉がびつたりのまさに「ベッドタウン」だ。（出典：2018年度データ分析に基づく戸田市の現状と課題）昼間は市内にいないから、戸田がどんなところで、どこで何をやっているのかわからない。近所づきあいや、商店へ買い物に行くことも少ない。つまり、戸田を知らない人と、昔からこの地に住んでいる人との交流が少ないことが問題点である。

きっかけ

2007年、私は戸田に引っ越してきた。隣の蕨市からだったので、すぐに馴染むだろうと思っていた。ところが何か違う！あいさつはするし問題が起こるわけではないが、どこか「つめたい」「よそよそしい」「サラッとしたおつきあい」。イベントや児童館に行っても、コミュニケーションがなくて「つまらない」と正直思った。

私は親子サークルを立ち上げ、子どもが幼稚園に通うまでの2年間、仲間と悩みを共有した。その最後の活動の時に「未来の自分」をテーマにやりたいことや夢をみんなで語り合った。「子育てで今は自分の時間をつくれなけれど、いつか実現したいね」と言って解散。



イベント前の説明会は必ずやります





飲食テントも出てお祭り気分

## キラキラ輝くTodaママフェスタ

3年後、メンバーのひとりと再会。なんと！「ヨガの先生になりたい」という夢を実現していたのだ。「でも、なかなか知ってもらおう機会がなくて…」「じゃあ、子連れでも教えられる、学べる場所をつくって知ってもらおう！」と私は決意。元サークルのママに声をかけ、メンバー5名で実行委員会を立ち上げた。

趣味や特技、資格を持っているママの「自分を表現できる、夢を実現できる場」をつくり、地域に知ってもらいたい。そんな思いか



親子で出展しています



子ども先生もスライム作りで大活躍

ら2015年「キラキラ輝く」Oobaママフェスタを開催した。戸田市では初めての実行委員が全員「ママ」という、ママのためのイベントだ。

・2015年11月／900人

まさかの来場者にびっくり！11月だということに、冷房を強めるほどたくさんのお親子で熱気むんむん

・2016年11月／550人、12月／1000人

「元倉庫をリノベーションした空間」で開催したら、「戸田にこんなおしゃれな場所があったの？」と大人女子に大人気。来場者は少ないが、滞在時間は長かった

・2017年6月／600人、12月／2000人

市内の小中学校やお店にも協力を呼びかけ、商店会から協賛金をもらうなど、地域を

巻き込むことに成功！

・2018年12月／2890人

「お客として来ていたが、次は出展したい」というママが増えて、会場の1階から3階まで全館貸し切り。スタッフはくたくた・・・

・2019年6月／2200人、12月／3000人、8月／6000人（ふるさと祭り）

「Todaママフェスタ」ワークショップというイメージが定着

戸田市最大のお祭りに参加、6000人

「Todaママフェスタは小学生も参加できるワークショップが毎回多数あり大人気だ。ものづくりが大好きな「とだっこ」が楽しんでいる様子を見た市長から「子ども向けのイベ



ガラポンは子どもに大人気

ントをやってみないか？」とお話をいただき、「第45回ふるさと祭り・ものづくりワークショップ」を開催。2日間で6000人も親子が来場して、会場を熱くした。こういう活動で子どもたちが「戸田っておもしろい」「けっこういいよね!」と感じてくれるとうれしい。

### パパも来てほしい

「ママの次はパパ」と、ファミリー参加型の「Toda ママフェスタ with B B Q 祭り」を開催。B B Q 協会のマスターが「カンタン、おいしい B B Q のやり方」をレクチャーした。広場では子どもたちがマシユマロ焼きを楽しみ、今までとはちがったママ（パパ?）フェ

スタとなった。

### 毎回新たなことにチャレンジ

5年間やっていく中で出てきた問題点をひとつひとつ解決しながら、新たなことにもチャレンジしている。たとえば「イベントに出たいけど自信がない」というママのために、「自分のお店・教室を開くのに知っておきたい8つのコト」を開催。SNSやチラシ、写真の撮り方など全6回のセミナーを開いた。その効果もあり、個性が光る素敵なお店が年々増えている。

また「親子de出展」は子どもにもお店体験をさせたいというママのために設定したところ、「ママってすごいね」「うちの子、意外と仕事できる」と認め合う場になっている。運営側からはお駄賃として地域通貨「戸田オー」をプレゼント。

### つながりを大事に

Toda ママフェスタではイベント前に交流会を行い、出展者同士がつながる場をつくっている。情報を共有しあって他のイベントにも参加するなど、活動の場が広がっている。また行政、サポートセンターと協働、補助金も活用している。

コロナ禍で大きなイベントはできないけれど、オンライン化も検討している。

先日、転勤で戸田を離れたママから「オンラインならどこからでもつながれるからうれしい、参加したい」と、「戻りたい」という気持ちで伝わってきた。「住んでよかった」「ずっと住みたい」まち。それには夢を実現できる場と仲間づくりが必要だ。

「ママがキラキラと笑っていると、子どもうれしい! パパ元気! 元気な家族がふえる。もっと元気なまちにしたい!」この言葉を胸に、これからもママと地域をつなげていきたい。

(エンジェルすまいる代表 清水真由美)



埼玉ポーズ! 戸田、大好き